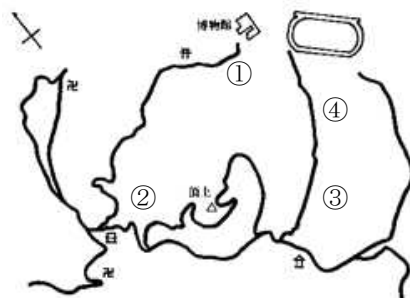


気をつけよう

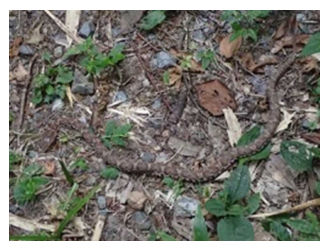
1. マムシ

は虫類の中でも、遊歩道で一番出会う機会の多いのはカナヘビですが、次はマムシでしょう。春、そろそろヘビが活動する頃になったと思うとマムシに遭遇します。打吹公園でも見かけますが、遊歩道では地図上の①～④の地点でよく見かけます。①は椿の平上、②は長谷の木造展望台から古い遊歩道を上がり傾斜が緩くなった場所、③は武者溜下の谷側に降りたところ、④は相撲場上です。

これらの場所の共通点は、遊歩道脇が藪でなく落ち葉が溜まって開けている、極端に乾燥していない、両側に樹木がある、ではないかと思います。見られる場所は、春と、夏から秋では違うようです。一定の個体数がいると



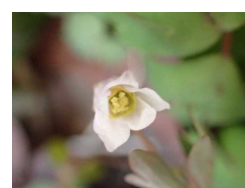
いうことは、ネズミやカエルなど餌動物が打吹山にいるということです。



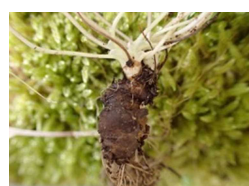
体色、斑紋が落ち葉と似ているため、意識しないと気付かず、マムシが逃げ出してわかります。道の真ん中にいた個体を踏みつけてしまったこともありました。保護色に自信を持っていることから逃げないため、出会いが多くなると思われます。春に攻撃態勢を取られたことはありませんが、手は出さないようにしましょう。

2. ヒメウズ

秋の終わりから葉を出し、寒さが厳しい中でも丈の低い葉で頑張っています。4月、暖かさを感じるようになると花茎を伸ばして花を開きます。細くて長い花茎の先にある可愛い5～6mmの白花に目が行き、手が出てしまいます。上を向くこともなく、開くこともありません。この白い花弁に見えるものは萼であり、花弁を見るためには下から覗かなくてはなりません。高さがありませんから、手で上を向かせることになります。したがって花弁を見たことのない人がほとんどでしょう。萼の中には重なった取り柄のない形の黄色い花弁と黄色の雄しべ、雌しべがあります。



生育場所は、ある程度の水分と日当たりが必要です。したがって林内にはありません。打吹公園や長谷の展望台下、西の登り道でまとまって生育して



芋：トリカブトの
烏頭に相当

いるのがみられます。石垣の隙間も好みようです。他の草木が休眠する時期に葉を展開し、花を咲かせ、夏には存在を消す多年草です。急速な繁栄をせず、必要な栄養を地下茎に蓄えこんで開花できるようになります。株が大きくなり葉数も増えると、花数が多くなっていきます。花の時期を見るとスプリング・エフェメラル(書籍『打吹山ウォッチングガイド』P.1参照)といってよいように思われます。短い期間に根や地下茎に栄養を蓄え、必要量となった年に開花するという点でも共通です。長い下向きの萼は寒さから花を守っている構造ともとれます。葉はオダマキにそっくりで、この仲間の特徴です。名称のウズは烏頭(うず)で、トリカブトに似た葉で小さいことからきています。トリカブトのような猛毒ではありませんが、毒成分プロトアネモネンを含み、ちぎったりして汁がつくと皮膚炎を起こします。

(倉吉博物館専門委員 國本洸紀 2022)